

| | | | | | | |
|---------------|---|-----------------------|------|-----------|-------|-------|
| 学校教育目標 | 『認め合う心・高め合う心をもって 自分らしく生きる』 | | | | | |
| | 【知】 学ぶ喜びを実感し、自ら深めていく生徒を育みます。 【徳・体】心の健康に関心をもち、自他の生命を尊重する力を育みます。 【公・開】社会の一員としての自覚をもち、心豊かな人間関係を作る力を育みます。 | | | | | |
| 学校概要 | 創立 41 周年 | 学校長 | 勝 俊一 | 副校長 | 中野 瑞枝 | 3 学期制 |
| | 児童生徒数: 295 人 | 主な関係校: 芹が谷小学校 芹が谷南小学校 | | | | |
| | | 一般学級: 8 | | 個別支援学級: 3 | | |

| 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 | 中 ブロック | 小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 |
|--|-----------------------------|---|
| <抽象語彙の豊さ> ・目的や意図に応じて伝える力 <考え方の妥当性や 信頼性を吟味する力> ・多様な考えのよさを生かす力 <自分の言葉でわかりやすく伝える力> ・伝え合うことで自分の考えを深める力 | 芹が谷中学校 芹が谷小学校 芹が谷南小学校 | 発達段階に応じたコミュニケーション能力の伸長 「自分の思いを大切に、相手のことを考えて伝える子」 ・ブロック合同授業研修及び研究協議会を行い、「学力観・指導観・評価観」を共有し、授業改善を通し子どもたちの学力向上を図る。 ・児童生徒交流の機会として、授業見学や部活動体験、コンサートなどを実施し、小学校から中学校への接続を円滑に進める。 ・3校の児童生徒代表が学校づくりについて話し合うとともに、地域のネットワークの中で意見交換することで、挨拶運動等の取組を地域とともに広める。 |

| | |
|---------------|---|
| 中期取組目標 | 人との関わりの中で自分を高め、社会の中で幸せに生きる生徒の育成を目指す ◇職員相互の信頼と協力、地域や協力機関との積極的な連携によって教育愛と活気ある学校づくりを目指します。 ◇授業方法の改善や特別支援の視点を取り入れた指導により、生徒の確かな学力と自己有用感の向上に努めます。 ◇人権の尊重や教育相談などの共感的生徒理解の充実に努め、誰もが安心して過ごせる学校づくりを推進します。 ◇横断的な教科の学習や協力機関の連携により、多様な文化や様々な人々と共生していく生徒の意識を育てます。 |
|---------------|---|

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|------------------------------|---|
| 確かな学力 | ○授業のユニバーサルデザイン化およびTT体制の充実にて、生徒の達成感の伸長を目指した授業改善に努めます。○生徒の実態を把握しながら分かる授業を目指し、学習意欲を高めます。○横断的な教科の学習を通して、主体的に判断し実行していく資質や能力を育成できるよう努めます。 |
| 担当 学習指導部 | |
| 豊かな心 | ○生徒の実態をもとに、教科書や道徳教材を計画的に活用し、自分の考えを伝えたり伝えあったりする授業を行い、コミュニケーション能力を高めます。○基本的生活習慣の習得や学級組織や行事での役割分担にて、生徒自身の集団帰属意識や自己有用感を伸長し、安定した集団の育成に努めます。 |
| 担当 道徳担当 | |
| 健やかな体 | ○生徒や保護者に必要な情報を発信し、生徒が自ら考え、健康の保持や増進を進める意識を養うように指導を行います。○保健体育の授業にて、体力増進についての知識の習得や、生徒自身が自分の体力や技術の向上を確認しながら進められるよう努めます。 |
| 担当 保健安全指導部 | |
| 教育課程・学習指導 | ○新教育課程実施に向け、小中一貫カリキュラムを小中で相互理解を進め、学習の連続性を図れるよう準備を進めます。○アンケートや学習調査の分析をもとに、学習指導の重点を明確にします。○地域の方や卒業生を活用した学習会を開き、放課後の学習支援を図ります。 |
| 担当 教育課程推進委員会 | |
| 生徒指導 | ○職員間での情報交換を密に行ったり、教育相談を定期的実施したりすることで、生徒理解に努めます。○保護者からの理解と協力を得られる指導方針をもって指導に取り組みます。○児童支援専任、生徒指導専任の連携を中心として、9年間を通した生徒の育成をめざします。 |
| 担当 生徒指導部 | |
| 特別支援教育 | ○すべての子どもが安心して生活できる学校であるために、特別支援連絡会が中心となって生徒の実情や適切な支援方法を全職員で共有し、学校全体で支援を進めていきます。また、TT体制や個別学習支援を計画的に進めていきます。○個別支援学級と一般学級の日常活動や授業交流、学校行事での交流を積極的に実施します。 |
| 担当 特別支援教区連絡会 | |
| 地域連携 | ○地区懇談会への生徒及び児童の参加を実現し、地域と学校のつながり方について共に考える場面を作ります。○地域と学校の距離感を縮めるために、「あいさつ運動」等、より具体的で取り組みやすい内容を工夫し実施します。 |
| 担当 地域連携部 | |
| 人権教育推進 | ○各教科との関連を図り、探究的な学習を通して、学び方や考え方を身につけ、自分と他の人の大切さを認め合うことができるよう、協働的な活動を実施します。○いじめ講演会、国際教室、車いすバスケット等様々な人や関係機関とのつながりを通して、共に生きる人権感覚を育成します。 |
| 担当 人権推進担当 | |
| いじめへの対応 | ○人権教育や道徳教育の推進を図り、いじめの未然防止に努めます。○いじめを見逃さない見守り体制づくり・定期的なアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めます。○いじめ認知時の対策委員会をよりスピーディーに行い、被害生徒・保護者への支援および再発防止に努めます。 |
| 担当 いじめ防止委員会 | |
| 人材育成・組織運営 (働き方改革) | ○校内のOJTを推進させるために全職員が関わるメンターチームを組織し、校内授業研修会と連動させて全員発揮型のリーダーシップが図れるようにします。○各組織のリーダーは、いつ誰が何をするのかを掌握して組織内部を役割分担させて準備や会議の時間を短くするように取り組んでいきます。○一月に一日放課後の会議や部活動を休止して、勤務時間終了時刻に退勤できるようにします。 |
| 担当 副校長 | |